



消防局 警防課
電話:082-422-5648



医療機関との連携強化における救急DXの推進

1 概要

近年の新興感染症や高齢化によって多様な症状や救急件数が増加している。このたび、東広島市救急業務システムを導入することで、救急業務の様々な場面で業務改善を行う。DXを活用して消防と医療機関を繋ぎ、救急業務全体の高度化を行うとともに、病院前救護の充実を図り、市民の救命率及び救急の質の向上に繋げ、市民の安心・安全を実現するものである。

また、出動から報告書作成までが一連で完結できるシステムの導入は、中・四国地方で初である。

【参考】

- ・救急件数の状況

令和元年	9,286 件
令和2年	8,248 件
令和3年	9,480 件
令和4年	10,894 件

2 システムのイメージ

救急車に配備したタブレットへ入力した傷病者情報を医療機関とリアルタイムに共有するもの。



3 運用開始

令和5年4月1日

4 導入効果（合計想定短縮時間：37分）

① 現場滞在時間の短縮

傷病者情報をリアルタイムに共有できることにより、医療機関が傷病者の受入れ判断が早くなり、迅速な搬送ができることで、救命率の向上に繋がる。

想定短縮時間：2分

② 病院滞在時間の短縮

傷病者引継ぎ時に必要だった医師のサインを電子化することで、搬送後の待機時間を短縮し、次の出動が可能となる。

想定短縮時間：5分

③ 出動報告書の作成時間の短縮

現場でタブレットへ入力した傷病者情報が報告書システムへ自動反映することで、報告書の作成時間の短縮を図る。

想定短縮時間：30分